

生活水準の向上、洋風化、多様化という将来像の下に所有量を決定した。電気掃除機の普及と、住様式の洋風化による掃除用具の変化、即ちモップ等の所有率の増大等が考えられる。収納方法については、使用目的から座敷用、戸外用、便所用に分類し、夫々集中的に収納場所を考えた。標準寸法についてはデパート等で市販されている物を中心に常用されている寸法を実測して調べ、収納の標準化のために生活機器モジュールによる標準寸法に直した。

3. おわりに この研究により、掃除用具の標準所有量が決められ、生活機器モジュールによる標準設計例が示された。今後の問題として、収納方法、位置（特に高さ）等についても動作分析による科学的追求により検討を加えておく必要がある事、その他、寝具、一般道具及び生活機器等々についても標準所有量を追求し、その標準化を行う必要がある事があげられる。

#### C-17 R.C. アパート及び独立住宅における収納について（その4）—掃除用具の標準所有とその収納—

大阪市大家政 ○北浦かほる  
前原 匡子  
上林 博雄

1. はじめに 本題（その2）<sup>2)</sup>では掃除用具の所有と収納の実態を探ったが、住宅の工業化、量産化が問題とされている現在、これを直接設計に役立てるにはある程度の標準化の追求が必要である。本論では掃除用具の標準所有量と収納方法を追求し、その標準化を試みた。

2. 標準所有量とその収納の追求 中間階層の標準家庭を設定し、調査による所有・使用状態等の分析結果を参考資料に実生活上からの必要性をも検討しながら、住